



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

DAIRY JOURNAL

Vol.44

2017年冬号

平成28年度 第3回全体研修

テーマ「訪問歯科・訪問口腔ケアについて」

開催日時 平成28年10月27日(木) 13時15分～17時00分

開催場所 JA共済埼玉ビル 3階 第1会議室



本年度第3回目の全体研修は、大宮歯科医師会会長 栗原孝幸氏、まき歯科医院 院長 巻純一氏、桜木歯科クリニック院長 今井俊行氏、大宮歯科医師会 歯科衛生士 猪野貞子氏を講師としてお招きしご講義をいただいた。

会員の出席人数は、当日さいたま市主催の総合事業に向けた集団指導が一部の区で開催されたこともあり

20名程度の出席となったが、その分講師の先生との距離間も近くアットホームな環境でより充実した研修となった。

まず栗原氏より大宮歯科医師会の活動状況、今後の地域包括ケア推進に向け、当協会を含め、地域でサポートし合う連携、協働の重要性についてご説明をいただいた。

次に、巻氏より訪問歯科においてもアウトリーチの必要性や在宅での訪問治療についてご講義をいただいた。

訪問歯科において初回訪問時に口腔アセスメントを行い、治療もしくは口腔ケ

アに振り分け診療を開始する。治療の他にも、嚥下の状態、義歯の不具合、口腔ケアの方法など様々な問題について相談をしてほしいとのこと。治療においては診療所と同等という内容の治療は状態によって難しい部分もあるが、それにできるだけ近い治療が可能。

また、2年前から当協会と協働にて作成に着手し、現在使用している「大宮包括ケアネット医療・介護連携情報パス」についても、医療(歯科医師、医師)、介護連携を図る意味でも今後積極的な活用も必要性をお話いただいた。

続いて猪野氏より口腔ケ



アの重要性について最近の研究では、心臓病や肺炎、脳血管疾患など日本人の死亡原因の上位を占める疾患について、歯周病が関与しているとの指摘もあり、高齢者の口腔ケアが如何に必要か、阪神・淡路大震災においても震災関連疾患死の中で最も大きかった死因は肺炎で、その半分が誤嚥性肺炎の疑いがあるとの話もあり、避難所生活等で環境が十分ではなく口腔ケア不足が生じていた結果ではないかと考えられる。また先の東日本大震災における調査結果で、すぐに介護施設に歯科が介入した場合は肺

炎の発症がなかった施設もあり、いかに平時の状況から口腔ケアの必要性、正しいケア方法の周知、ネットワークの構築が重要と感じる講義であった。

今井氏の講義では、実際に利用者の自宅に訪問し、どのように治療を行うかの説明を現場で使用する治療器具や携帯レントゲン装置（かなり高価なものとのこ

と）を持参いただき説明を受けることができた。

また、長い間、不十分なケアで口腔内や義歯に歯垢が堆積してしまった方の治療の関わり方、経過などスライドを使用し学ばせていただいた。

その流れでの質疑応答では、認知症の方に新しい義歯を作ることは、本人が義歯を認識できないことが多

く、結局使用できないことが多い等、先生のこれまでの治療の体験談や、最近ではインプラントの土台が入っている方の治療の難しさなど、新たなケースが増えてきていることなど具体的に話していただき、介護支援専門員として、口腔ケアの重要性、専門職との連携の必要性を再度認識することができ少人数ではあつ

たが、より充実した内容の講義、情報交換を行うことができた。

今後の地域包括ケアにおいても多職種連携、在宅ケアの重要性がこれまで以上に謳われており本研修の内容をこれからの支援に生かしていきたい。

平成28年度 第4回全体研修

テーマ ① 行政説明「新しい総合事業について」

② 講義「総合事業と次期介護保険改正について」

開催日時 平成28年11月16日（水）9時30分～12時00分

開催場所 浦和ふれあい館 第1会議室

第4回全体研修は、さい

いた。

たま市保健福祉局福祉部介護保険課 課長 緑川誠一郎氏、いきいき長寿推進課 係長 小島敦史氏、服部メ

宮本会長は、「今後ケアマネジャーに求められるの

事業が始まり、介護保険が始まった頃とは考え方が変わり、介護保険の制度前に戻りしないように、介護保険だけでなく社会全体でみようと国の方から、ケアマネジャーも今後のケアマネジメントの考え方を考えていかななくてはならない時代になる」と話された。

次に、小島氏より、さいたま市としての現状についてご説明をいただいた。さいたま市の人口分布は、全

部万里子氏をお招きし、延べ120名が参加した。

まず当協会の宮本会長と

国と比較し団塊Jr世代が多く、比較的段階世代の





生活支援の分野も重要。まずは高齢者の社会を促進し、元気な高齢者を増やし、元氣な高齢者を増やしながら、地域の支え合いの体制作りが今後も課題。

さいたま市は平成29年4月から開始となる介護予防、日常生活支援総合事業について、財源は変わらず、予防給付が国から行政事業に移行。その予防給付の中で、訪問介護と通所介護が

新しい予防給付・日常生活支援総合事業となり、訪問看護や福祉用具等は改訂前と同様予防給付となる。その事業は、現行サービスに加え、多様なサービス提供を予定しているが、個々に地域の事情に応じてサービスを類型化し、それに併せた基準や単価等を定めることが必要。さらに緩和された基準では、訪問介護の身

体介護は実施せず、生活援助のみとなり当初、ヘルパー3級資格でも提供が可能になる。通所介護では、長期間の交流型と短期間の運動型サービスを提供。介護報酬は現行の8割程度を想定している。

申請は従来型として、認定調査↓一次判定↓医師の意見書と共に審査・判定がされているが、新たに窓口で基本チェックリストを実施、即座に事業対象者判定を設定。有効期間を2年に延長し、包括支援センターには生活支援コーディネーターを配置、支援ニーズを掘り出しあらゆる地域支援から個々に最適な支援を提供していくと述べられた。

服部氏より、ケアマネジャーの方向性として、今後も住み慣れた在宅生活を継続させるには、在宅困難リスクとなつてきているアセスメントをしっかりと行い、医療機関を重点に、主治医や介護など、多職種との幅広い連携を強化、介護保険以外の資源や地域力を活用

増加。結果、介護給付も増加するため保険料も上昇。第5期の保険料が4972円に対し、25年には給付総額として20兆円相当が見込まれ、8200円の保険料が必要。さいたま市では、8800円と予測しており、金額を最小限度にするために、地域包括ケアシステムの構築を図ることは必須で、現在の介護保険制度の持続可能性を確保するための重点化・効率化も必要。その地域包括ケアシステムの構築は社会全体の支え合いとして、介護、医療、保健の専門的サービスはもちろ

ろん、住まいや介護予防・



「モニタリング、経過記録について」と題し、宮本会長を講師に、これまでの経験談や國光登志子先生の「ケアマネジャー必須書類、連携文書の書き方」を参考に研修を行った。

まず、記入時のポイントとして、6つのポイントをおさ

し、生活全体のケアマネジメントをすることがより一層求められる。最後に、今後の法改正において給付を受けている割合が7割を占めている「要支援・要介護2」までを給付から外すことは、介護保険を払い続け

でも利用できない介護保険になってしまふ。まずは、私たちケアマネジャーも業界動向に目を向け、積極的に市町村議会へ利用者・介護者の声を代弁しようとして、力強く話されたことが印象的だった。

大宮区活動報告 研修会

テーマ 「モニタリング、経過記録について」

開催日時 平成28年11月24日(木) 16時00分～17時00分

開催場所 特別養護老人ホーム はるばてお 研修室

今回の研修会は、日頃の業務の中で疑問に思っていること、不安に思っていることなど普段は自然に流れていってしまっていることを話し合える機会になればと思ひ、大宮区では今年度第一回目の研修を開催した。

「モニタリング、経過記録について」と題し、宮本会長を講師に、これまでの経験談や國光登志子先生の「ケアマネジャー必須書類、連携文書の書き方」を参考に研修を行った。

まず、記入時のポイントとして、6つのポイントをおさ

し、生活全体のケアマネジメントをすることがより一層求められる。最後に、今後の法改正において給付を受けている割合が7割を占めている「要支援・要介護2」までを給付から外すことは、介護保険を払い続け

でも利用できない介護保険になってしまふ。まずは、私たちケアマネジャーも業界動向に目を向け、積極的に市町村議会へ利用者・介護者の声を代弁しようとして、力強く話されたことが印象的だった。

「モニタリング、経過記録について」と題し、宮本会長を講師に、これまでの経験談や國光登志子先生の「ケアマネジャー必須書類、連携文書の書き方」を参考に研修を行った。



いることで、より一層連携が取りやすくなり、昨年からのモデル的に取り入れている「生活支援記録法」は、医療現場では看護師が診療録の分析手法で利用していた、SOAP（S…主観的データ O…客観的情報 A…アクセス P…

計画）に、F（着眼点、ニーズ）とI（援助者の対応）を追加して「FSOAIIP」として用いる。また、今後は人口知能（AI）が介護プランを作成するという埼玉新聞の記事より、「もつと勉強や知識を重ね、

必要とされるケアマネにならなければ、AIに先を越され、いずれ居場所のないケアマネになってしまうのでは…」と感じたが、実際は「AIはケアマネを支援するツールに位置づけて実用化を目指す」とのこと。

中央区活動報告 第2回中央区ケアマネサロン

テーマ 「在宅医・ケアマネがともに考える医療と介護のより良い連携について」

開催日時 平成28年11月24日（木） 16時00分

開催場所 新都心ホームケアクリニック

スを「満足」「不満足」など数字で評価して、モニタリング時のコメントを記入でき、6か月分を1枚で効率的に記入できる書式になっている。

そのほかにも、短期目標の更新が軽微な変更になるのか？ 単なる延長の場合はどうすれば良いか？ 経過記録に必須で記入することや記入しなくても良いこと。新規申請時や要支援からの変更申請時の届出書を出すタイミングの確認など、日頃から不安に思うことなどを確認することができた。

最後に会長から今後のケアマネ展望について、医療との連携がますます重要になり、多職種での連携が必要になる。「生活支援記録法」を用

この日は11月としては54年ぶりの初雪が降り、ようやく雪が止んだ頃、緩和ケアを中心に在宅医として1年前に新都心の北与野駅に開院された当クリニクにて、小野充一先生を囲んで中央区の会員11名が参加しフリートークの交流会を行った。

小野先生には終始、本音で語っていただき、和やかに有意義な会を進行することができた。最初に「1年間やってきて、ようやく地域の皆さんと交流を持つことができて良かった。ざっくりばらんに草の根的に肩肘張らず、向上心も高めることができたいの

では「また「患者さんを守るのは私たちと考えているケアマネジャーに協力したい」と小野先生より話された。印象に残った話題について紹介すると

- ・小野先生「緩和ケアでは家族のフォローも大事。もっと大事なのはスタッフも、辛さをお互いにフォローできるといいのでは」。
- ・グループホームでの看取りについて、医師の意見でホームでの看取りはできなかつたことなど。
- 小野先生「緩和ケアって考え方や価値観が変われば楽



・有料老人ホームでの看取りについて、職員は目の前で死んでいくのを見ていることはできない。小野先生からは以前関わった施設で看護師が反対して看取りができない場合もあった。

・小野先生「どこで亡くなってもいいのではないか、それは乱暴なことなのだろうか」。

ケアマネ「ケアマネだと孤独死させないという思いがある」。

・24時間対応についてはいろいろあり、どういう対応をしてくれるところなのかケアマネは読み取る必要がある。

・ICT導入について、まだ始まったばかりだが、チーム間で意識の違いをそのままにしておく、つぶさな情報を見ることができると、意見のぶつかり合いが出てくるのでは。便利にク

レームが届いてしまうことがあるのでは。

最後に小野先生から「時代は間違いなく病院で亡くなるのではなく施設が在宅になりつつある。緩和ケアを行うには効率よくどこまでコストがかけられるかが大事なのでは」。

参加者からは本日のテーマは深いですね。また絶対聞けないような話を、池上彰みたいに話していただいて良かったとの感想があった。そして

「繋がっているうちに何か糸口になれば」と次回の交流会も大いに期待できる心強い先生の言葉で締めくくっていた。

小野先生は当クリニックにて毎月第4日曜日に誰でも参加できる「死生勉強会」を行っており、地域で学ぶ死生学の知識と考え方を提案し、共に考える機会を提供しより良く生きる知恵を共有することを目標としている。また第2日曜日は「がんと高齢者を支える総合講座」も開催している。

よって異なる方針に左右されてしまう」といった、その施設独特のものなどが聞かれた。

ベテランの参加者からのアドバイスや情報を受けて解決されたものもあれば、この場で解決に至らなかったものは、役員で内容を抽出し、今年度最後に予定している研修会で講師に回答を頂けるように計画している。

また、ケアプラン作成の具体的な方法や事例検討等の研修は、毎年恒例の神奈川県立保健福祉大学教授峯尾武巳氏による勉強会を、今年度も開催を計画している。

今回は、岩槻区の方からの要望を受け、施設ケアマネ研修会としては初となる同区でのサロン開催となった。当日入会された方が2名、また今月、事前に入会して参加した方が1名あり、ここに報告することができていることを嬉しく思う。

施設ケアマネサロンの報告

テーマ：「ケアプラン」

開催日時：平成28年10月15日（土） 14時00分～16時00分

開催場所：コミュニティセンターいわつき 会議室A（岩槻区）

今年度3回目の施設ケアマネ研修会の活動として、施設ケアマネサロンを開催した。施設におけるケアプラン作成に関する話題を以下のテーマに沿ってグループで情報交換を行った。

① ケアプラン作成時に困ったこと

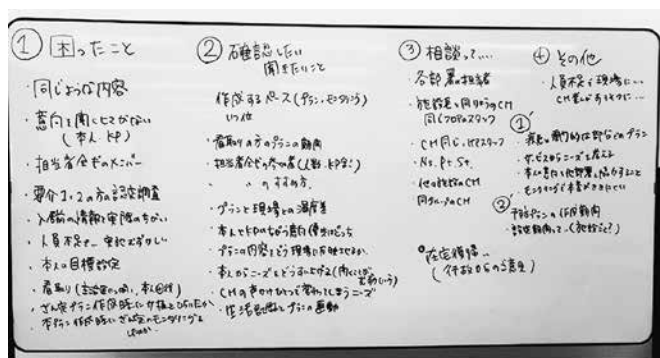
② 確認したいこと、聞いたこと

③ ケアプラン作成時に相談できる相手はあるか？

④ その他、検討したいこと

前半は個人ワーク用シートを個別に配布して①～④のテーマに沿って記入しながら、グループメンバー間で情報交換を実施。後半は、グループワーク用シートを各グループに1枚渡し、出された意見

をまとめ、最後にグループごとに発表して頂き、参加者全員で情報を共有した。それぞれのテーマごとに様々な話題が出されたが、特に多かったのが①である。「モニタリングで利用者の本音がなかなか聞き出せない」「サービスからニーズを考えてしまいがちで同じようなプランになってしまう」「入所時の情報収集が難しい」など、参加者の中には初心者も多かったことを窺わせるものや、「現場職員のケアプランに対する認識不足」に代表される悩みや「看取りの際に主治医に



平成28年度 さいたま市「介護の日」フォーラム

～安心は地域の絆から～

一緒に作ろう 支える力 街の力

開催日時 平成28年11月11日(金) 10時00分～15時30分

開催場所 浦和コミュニティセンター 多目的ホール

I部 講演

テーマ「応援しよう！人生のりハビリテーション」

講師 さいたま市介護保険サービス事業者連絡協議会代表幹事

新井 優 氏

11月11日、浦和コミュニティセンターにてさいたま市介護の日フォーラムがありました。フォーラムには、さいたま市行政をはじめ市内の介護従事団体や一般市民、また将来介護の道を目指す学生たちも含め、100名以上の方が参加されました。

午前のI部では、さいたま市介護保険サービス事業者連絡協議会の新井代表幹事講師による「応援しよう！人生のりハビリテーション」というテーマの講演がありました。冒頭は、特養に入所されたご利用者との出会い。安心を伝達することで次第に心を開いて下さり自尊心を取り戻されご自宅に戻ることができた

という内容で、心を通わせ合い人生の意欲を取り戻すことこそ、人生のりハビリテーションであることを教えていただきました。

その後、入職面接する学生に、利用者に対して真っ先にすることは？と必ず尋ねること、そして介護するうえで重要なことは『自分を紹介すること』と伝えていること。

また、来年度から始まる総合事業に関して、施設が行う介護から地域で生活を支え合う理想的な社会作りのきっかけになるやりがいのある事業であるお話をいただきました。

結びには、「介護」という言葉は支え合いの上で成り立っているのに、利用者側に

とっては一方的な言葉でナンセンス、『し合える』『支え合う』という意味合いがしっかりと伝わるような介護に変わる新しい言葉を皆で創造しましょう！とお話をいただきました、印象的でした。

私たちの仕事は、一步一步お互い理解を深めることで安心と信頼を蓄積し、人生のりハビリテーションを共に実現していくことではないでしょうか？との問いに、一ケアマネジャーとして、改めて利用者お一人おひとり向き合っている、人生のりハビリテーションを目指していこうと思えました。

II部 パネルディスカッション

テーマ【現役介護福祉士が語る介護の魅力と本音】

～さいたま市で介護の仕事 今も未来ともにつながるが竜 スウー～

・コーディネーター

菊地 博之氏 特別養護老人ホーム 敬寿園宝来ホーム

森 充央氏 特別老後老人ホーム 尚和園

・パネリスト

澤本美耶子氏 介護保険施設 うらわの里

栗原 法子氏 高齢者総合福祉施設 敬寿園デイサービスセンター

萩原 健介氏 特別養護老人ホーム 春陽苑

竹葉 陽介氏 特別養護老人ホーム きりしき

平井 佐保氏 有料老人ホーム センチュリーシティー大宮公園

第II部は、福祉専門学校の学生が多数参加し、主に学生に向けて「現役介護福祉士が語る介護の魅力と本音」と題して開催されました。内容は、「キャリアデザイン」「ワークライフバランス」「未来の介護職へ伝えたいこと」の3つのテーマに分けて、パネルディスカッション形式で行われました。

キャリアデザイン

最初の1、2年目は、覚えることが多く仕事をこなすだけで精一杯。学校で学ん

だとおりに行かず、いかに冷静に臨機応変に対応することの大切さを痛感する日々。3年目から人間関係もできて自分のスタイルも確立し、利用者さんに対しても余裕をもって接することができるようになった。いろいろな職種の人と積極的に関わることで知識・経験の幅が広がり、一人の人間として大きく成長すると思う。自分が成長することで、今まで教えていただく立場から教える立場、管理する立場に変わっていく。例えば、現場スタッフ

だけで精一杯。学校で学ん



のモチベーションを上げる
こと。自分たちが楽しくな
いと利用者さんも楽しめな
い。職員が楽しめる環境を
作ることが後輩達の底上げ
につながり、今後も後輩達
の指導を頑張っていきたい。

・学生さんが抱えている不安
の中で待遇がよくないとい
われているが、自分のが
んばり一つでどうにでもな
る。この業界でどのような
仕事をしたいか目標を持っ
て進んでいけば、未来を見
渡せる仕事。役職につくと
や偉くなるのがキャリア
アではないと考えている。
自己研鑽や努力の過程、そ
れがキャリアデザイン。そ
の結果に役職がついてくる
のではないかなと思う。

ワークライフバランス

・私の職場は、休みがとりや
すい雰囲気があり仕事のオン・オフができる。子供
の体調が悪いときは、欠勤
や早退もできる。お互い様
で周りのサポートや職場の
理解があり助かっている。
ワークだけでなく楽しくラ
イフ、仕事のオン・オフが

できることで良い介護につ
ながる。職場を出たら仕事
を忘れる。家庭に仕事をな
るべく持ち込まないことが
大事。

・この仕事をやっていて得し
たこともある。学童・小学
校で役員になりたがらない
人が多いが、この仕事をし
ているとみんなができない
ことも「ハイ」と手を挙げ
ることができるようになっ
た。育児と仕事の両立がで
き、今では介護の仕事を選
び良かったと思っている。

未来の介護職へ伝えたいこと

・理想と現実から逃げない。
・スマホを使う人も増えてく
るなど多種多様なニーズに
答える。

・マニュアルだけでなく感性
も養う。

・笑顔で接することが大事。
笑顔でいると自分に余裕が
でき相手にも余裕がでる。
この思いを大切に頑張っ
てもらえたらと思う。

・介護の仕事は人相手の仕事、
常に考えて行動する必要が
ある。技術だけでなく何よ
りも思いやりの心が大事。
この仕事のやりがいはいは、ご

入居者の方の笑顔だと私は
思う。一人ひとりのやりが
いは違うかもしれないが、
ぜひ皆さんにもやりがいを見
つけてほしい。

最後に、コーディネーター
より、「世代は違っても目指
すところは、さいたま市の福
祉の世界を盛り立てていくと
いう主旨で、今回のディス
カッションを企画しました。
パネラーの人たちの話を聞い
て、自分の未来像を少しでも
イメージできたら、この会が
本当に良いものになったと思
います。今日のテーマを振り
返って、目標について語り
合っていたらただけたらと思いま
す」と学生に向けてエールを
送りました。



清水さいたま市長との懇談会

平成28年12月11日 清水勇人さいたま市長をお招き
して懇談会を開催いたしました。

さいたま市介護支援専門員協会からは宮本好彦会長、
野崎直良顧問他役員数名と関係機関の方数名が参加い
たしました。

和やかな雰囲気の中で懇談会は進み、当協会からは
ケアマネジャーの業務や高齢者福祉・介護の現状を清
水市長にお伝えをいたしました。

清水市長からはさいたま市の高齢者の現況をお話し
していただき、大変有意義な会となりました。



ちょっと coffee break

会員N

新しい年を迎えた。昨年を振り返り、ずいぶん走ったなあと思うこのごろである。年齢に合った労働量の仕事だったらいいのと思う。この十年毎月の行動は変化ない。むしろ労働量が増しているような気がするのほとのせいかもしれない。

私の友人が、半年ほど体調悪く、夏の終わりからは引きこもってしまった。しばらく様子を見ていたが、良くならないようなので、私は精神科に連れて行った。そこでもう一度内科に診てもらったほうが良いといわれ、紹介してもらったところ、難病の診断がついた。体調悪い間何度も受診していたのに診断がつかず、受診するのも大変になり動けなくなっていたのだ。今、診断がはっきりしたおかげで治療に専念している。社会復帰を願うばかりである。もし、「AI」を活用して、治療していたらもっと早く病名がわかったかもしれない。歩けなくて生活もままならなくて不安でいっぱいになる前に治療できていたかもしれないと思う。くやしい限りである。

ケアマネジャーも「AI」がケアプランを作成してくれるのだろうか。利用者の情報を入れたらどこのデイが

いいとかどこのリハビリがいいとか言われるのだろうか。そしたら、「AI」はこう申しておりますが・・・なんてお勧めしやすくなるのかな・・・「AI」を活用してケアプランがたてられたら、とっても楽になるかもしれない(笑)

ちまたでは、ケアマネ不要論があるようだが、私たちには愛がある。「本人の意向」プラス「私たちの知識」プラス「愛」プラス「愛」プラス「愛」・・・イコール「ケアプラン」ではないだろうか。愛はギブ&ギブなんだそうだ。与えて与えて与えるのだという。この世が愛でいっぱいになれば争いも無くなるのだ。

手を取りハグしてオキシトシンを分泌して生きる力を引き出すのだ。ロボホンやベッパくんにはないものがあるはずなのだ。月に一度の訪問を心待ちにしている人がいる。あなたと会えてよかったと言ってくれる人がいる。真剣に向き合い、あきらめない、ハートフルなケアでいっぱいになりたい。

ラヴ&ピースで超高齢化社会を乗り切ろう。そして世界の平和を願うのだ。

さいたま市介護支援専門員協会 ホームページに掲載しています。
ぜひご覧ください。

- * 当協会の研修案内（全体研修・施設ケアマネ研修・各区活動等）
- * 関係団体等の研修案内（情報提供）
- * 介護関連情報（介護保険最新情報・介護給付費分科会情報）

さいたま市介護支援専門員協会

検索

ホームページ <http://www.saitamashi-keamane.jp>

平成 29 年度 さいたま市介護支援専門員協会

「通常総会 及び 全体研修」開催のご案内

開催日 平成 29 年 5 月 20 日（土）

開催場所 市民会館おおみや

事務局

〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1864-10

JS日進 さいたま市社会福祉協議会内 さいたま市介護支援専門員協会

電話 048-782-6839 FAX 048-782-6840